G−4　家庭科教育の家庭生活への貢献度および主婦の家庭生活に関する知識・技術の習得状況について

東京学芸大　○三浦鏡子　武井洋子　岡村喜美

（目的）

学校教育における家庭科の家庭生活への貢献度および学校教育終了後の家庭生活に関する知識・技術の習得状況を認識することによって，家庭科教育の問題点を探り，今後の家庭科教育の充実に資することを目的として，主婦の意識調査を行った．

（方法）

調査対象は，東京都内の区立および市立幼稚園の園児の母親（20歳～39歳）525名を無作為抽出により選び，質問紙留め置き調査法を用いて調査を行った。

（結果）

調査の結果の概要を次に示す．

1. 家庭科教育の家庭生活への貢献度については，役だっている内容に交際と作法「食品衛生」被服の手入れ・保管のしかた「栄養素の機能」等があり，役だっていない内容に「染色」設計図と木製品の製作「大裁ひとえ長着の製作」住宅の設計とすまい方」等がある。
2. 学校教育終了後習得した内容には縫い方の技術（ミシン縫い）「ブラウス・スカート・ワンピースなどの日常着の製作「編み物」等，被服や手芸に関するものである。
3. 今後学びたい内容には「編み物」ブラウス・スカート・ワンピースなどの日常着の製作「縫い方の技術（ミシン縫い）「調理のしかた」「原型の製図」等技術面が主であった。学習の理由は家庭生活の充実向上のためであり，開始時期は子供が学齢に達した時からとし，学習する機関は，各種学校，講習会，婦人学級を希望していることがわかった。